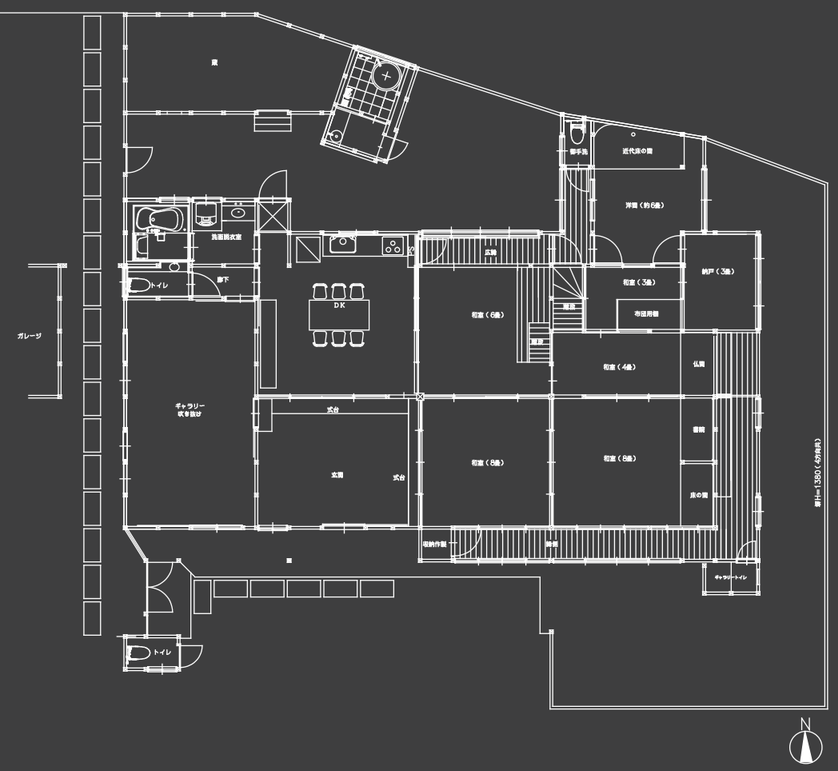
古民家再生–陰翳礼讃

火災で壊滅的な被害に遭った築 150 年を超える古民家の改修工事計画。過去には歴代の武将が建てた立派な城でさえ火災の被害に遭うと潰されてきた。
そのような中、立派な伝統建築そして歴史を自分の代で終わらせたくない、終わらせるものかと立ち上がった主の想いと重みを受けとめ設計を行った。
　まず、着手までに駆体表面の炭化削り、強度計測、古材収集など果てしなく感じる二年間の道のりを経て再生計画は進められた。また地元兵庫県の木材（杉、檜）を一部用いることにした。
　全体のテーマであった「陰翳礼讃」を表現すべく、障子や格子窓からの光と陰の出方や、日本の色にこだわり統一感を出せるよう設計。
この古民家を再生するにあたり、日本人はもとより世界の各国から訪れた人々に日本の伝統建築、日本の伝統工藝の良さを感じてもらえるよう随所で表した。
例えば古民家らしさを追求した玄関土間からダイニングキッチンへと続く格子戸に間接照明をあて陰影を楽しめるように。家族や客人が一番集う場所には、漆黒の壁掛け式暖炉を設置し、先人がまるで囲炉裏に集うかのように自然と人々が集まりたくなる空間を創りだした。キッチンの面材にも栗の木を使用し、名栗加工拭き漆仕上げとした。床は 21 ㎜働き 160 ㎜巾のナラ材を全面に使用し、古民家の迫力を表現した。
古民家と調和すべく、日本の美しさを表現した建具や家具、照明、漆で仕上げた名栗のキッチンを配置。季節を感じる坪庭を眺めることができるように和風呂や雪見障子とした " 近代床の間”を設けるなど、随所に和の趣を感じさせる設計を行った。和風呂には昔使われていたという木製天井を再利用した。和風呂の窓にも木製窓とし、古き良き和の趣を大切にした。
また二階のプライベートバスルームには、火災で炭化した梁を一部残し、まるでその梁と寄り添うようなスモークシャンデリアを配置。
二度と起こってはならない、しかし風化させてはならないその思いと美を融合させた空間にした。

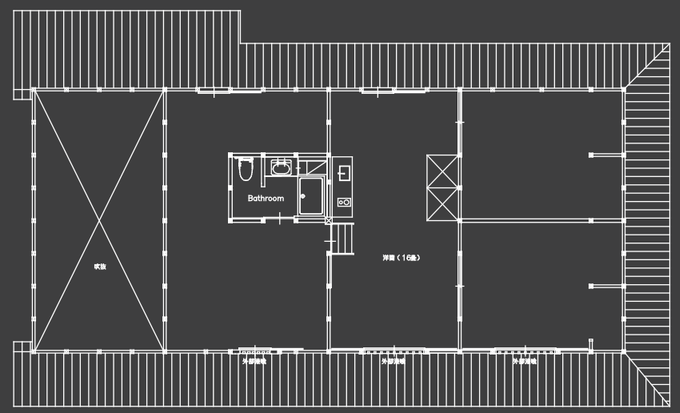
訪れる客人にもこのギャラリーで、そしてこの受け継がれた古民家で過ごす事が出来るよう設計を行った。
決して容易ではないプロジェクトではあったが、この家を継いでいきたいと、施主設計施工が三位一体となって行えたからこそ、成し得たプロジェクトである。

古民家再生–陰翳礼讃

この古民家の象徴的な部分をはじめ、兵庫県佐用町の杉を用いて再生を行った。

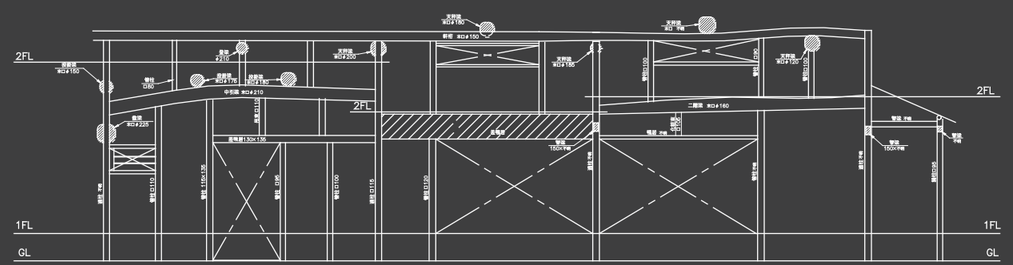


1 階配置・平面図



2 階平面図

南面立面図



Y2-3 断面図